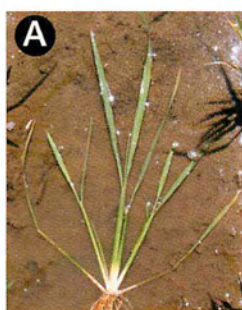
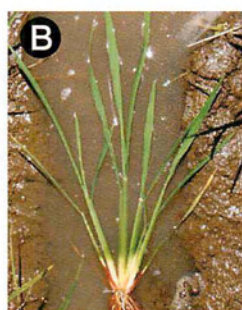


# 10. 分ゲツ肥

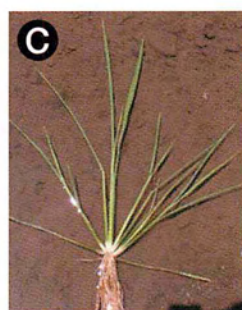
田植えから20～40日経てば、やっとチッソ追肥を施す時期になります。出穂予測日から逆算して50日前（水稻の生育段階としては7葉期）に、稲株の状態を見て『分ゲツ肥』を施用します。これ以後 二次分ゲツも出て、分ゲツが急増する時期に、チッソ肥料の必要量が大きくなるのに対し、地力だけでは不足するおそれがあるので、これを補給して、充実した有効茎（穂）を確保するための肥料です。



▲7葉目の伸び始め  
分ゲツ肥は、まだ



▲7葉目が伸長  
分ゲツ肥、可



▲8葉目の伸び始め  
分ゲツ肥、可

## 【分ゲツ肥の時期】

この米作りでは 元肥を施さず、この時期までチッソ肥料を抑えていることが重要です。主稈（親茎）で7葉が展開した直後には、最終的な稲の形を見て、止め葉から数えて第5葉（第5節間）が葉身抽出し、第4葉（第4節間）が茎中で分化します。この時までチッソ肥料が少ない状態にしておけば、将来、第5節間は伸びず、第4節間も分ゲツ肥が過剰で無い限り 短い体質ができますから、倒伏の心配がありません。もしこれより早くチッソ肥料を与えると、第5節間が長く伸びてしまい、倒伏の心配がありますから、分ゲツ肥は必ず、7葉が展開した後に施すのです。

また、この時までに出た太根（冠根）が土層深く伸びて下層根となり、米粒の歩留りや米の品質向上（アミロース含量低下）に大きく貢献します。下層根を伸ばすために、この時期まではチッソを効かせずに育てて来たわけです。この時期から後は、いよいよ茎葉を充実させ、分ゲツを進めることになります。



5本植え  
15本

2本植え  
9本



3本植え  
12本

## 【分ゲツ肥時の莖数と調節】

最終的な穂数は坪当り1000～1200本(平米300～370本)あれば充分ですから、坪50株植えなら1株20～24本、坪60株植えなら1株17～20本でよい事になります。目標とする1株穂数(有効莖数)を23本とすれば、この有効分ゲツを確保して、それ以上の無効分ゲツが少なく、23本の莖が太く、穂が大きく充実するのが良いわけです。

1株当り目標穂数(目標有効莖数)23本から、現在すでにある莖数を差引いたのが、これから分ゲツすべき莖数です。その分ゲツをさせるために必要なチッソ量は、経験的に簡単に言えば、増やしたい莖数と同じkg数です。例えば現在1株8本で、あと15本増やしたければ、硫酸15kgです。(もし坪当り株数が50～60株とは極端に違う場合は、目標莖数に対して40%以下なら硫酸15kg、40～60%なら10kg、60～80%なら5kgを目安としてください。)

下記の表によって、分ゲツ肥を施します。普通は、現在10～13本で、硫酸10kg施用となります。

現在の1株莖数	(今後 必要な分ゲツ莖数)	分ゲツ肥(10アール当り)
19本以上	—	0
14～18本	(9～5本)	5kg
10～13本	(13～10本)	10kg
9本以下	(14本以上)	15kg

平均的な出来の部分で10株を数えて、1株当りの平均本数を出してください。莖数を数える時は、まだツマヨウジのように細い莖も数えます。通常この時期には、苗1本が分ゲツして4本になっています。(4本目はまだ細い)1株3本植えだった場合は12本あり、硫酸10kgを施します。だいたい、これが標準です。

- この栽培を3年以上継続して、地力が増大している場合は、分ゲツ肥で地力を補う必要が無いことが多くなります。
- もしもこの時期に1株18本を越えるならば、過剰分ゲツです。もちろん分ゲツ肥は施しませんが、そうなった原因と状態を考えて対処してください。  
1株19～20本(目標莖数の80～90%)の場合は、もし葉色が濃く(葉色板で5番以上)、チッソが効いた状態ならば、分ゲツ肥は施さずに、出穂35日前まで待ちます。ただしもともと植込み本数が多く、葉色が薄く落ちているならば、硫酸5kgほどを施して、5日後(出穂45日前)に再度判断・対処します。
- 1株20本を越えている(目標莖数の90%以上)場合、もしも葉色が濃く(葉色板で5番以上)、チッソの効き過ぎならば、ただちに、**ラクトバチルス200g**ほどを土に混ぜて投げ込んでから、その後、水を落して干します。しかし、もともと密植で莖数が多いけれども、葉色が薄く、チッソの効き過ぎのように見えない場合は、分ゲツ肥はやらすにおいて、5日後(出穂45日前)に軽い中干しに入ります。莖数が多過ぎて、葉色も濃いのは、堆肥の多量投入、レンゲの鋤き込み、野菜あとなどで、チッソが多い(水のEC=0.4)場合によくある現象です。
- 逆に莖数が9本以下の場合、もともと1～2本植えなら良いのですが、3本(以上)植え込んだ株で9本以下しかないのは、何らかの生育異常のおそれがありますから、原因を探ってください。  
莖数は9本以下と少ないが、葉色は濃く(葉色板で5番以上)、チッソが効いている(田水のEC=0.4以上)場合は、硫酸10kg前後に**ラクトバチルス200g**を混合散布すると、分ゲツを促進しながら、無機チッソが効過ぎません。

分ゲツ肥は、水をやや多めにして、田面が露出しないように田んぼ全面に満遍なく水がある状態で散布します。動力散布機などで散布した後、2～3日水の出入を止めて、土壤に浸透させます。また葉に露がない時(昼間)に散布してください。

分ゲツ肥を施用した後は、株元が開き、枝垂れ葉がなく、葉がすっきりと立ちます。

葉色は濃くなる場合もありますが、穂肥時期までに褪めれば、差支えありません。

硫酸10～15kgを施した場合、普通の土壤ではチッソが効いている(田水のEC=0.4)期間は5～10日間です。また葉中チッソ濃度が0.3%ほど高まる期間は約15日間です。